

小児B型慢性肝炎のeAgからeAbへのSeroconversion —特にNatural Seroconversionについて—

(分担研究：小児の肝疾患に関する研究)

木村 昭彦*

松行 真門

栗谷 典量

大谷 靖世

山下 文雄

要約：小児のB型慢性肝炎の自然歴を知るため、自験60例のe抗原からe抗体へのseroconversion（以下、SCと略）の実態を検討した。その結果、未治療群では、(1)51例中31例（61%）にSCを認めた。(2)10歳までに87%がSCを起こした。(3)観察3年以内に50%以上にSCが見られた。治療群では、(1)9例中6例（67%）にSCを認めた。以上より、小児B型慢性肝炎は、10歳までに、あるいは観察しはじめて3年までに高率にSCを起こすと考えられた。

見出し語：小児、B型慢性肝炎、seroconversion

はじめに：小児のB型慢性肝炎の自然歴を知る目的で、自験例のe抗原からe抗体へのSCの実態を検討した。

対象および方法：対象は、過去14年間（1976—1989）に久留米大学小児科を受診したB型慢性肝炎66例（未治療群55例、治療群11例）、初診検査時e抗原陽性60例（未治療群51例、治療群9例）のうち、SCを起こした37例である（未治療群31例、治療群6例）。66例の男女比は、48/18。初診時年齢は0.1—15.8歳。観察期間は2—118カ月。感染経路は、垂直33例、水平33例である。方法は、未治療群、治療群に分け、SC率を出す。またSC群及び非SC群に分け肝機能の比較をし

た。さらに、SC群の年齢分布、観察期間とSC率（未治療群のみ）、感染経路（垂直17例、水平20例）別の観察期間とSC率（治療群+未治療群）を検討した。肝機能（SC前のGOT、GPT、ZTT、TTTの最高値）の比較は、それぞれの値が正規分布しないことより対数変換しAspin-Welch t TESTを用いた。各観察期間におけるSC率の検討にはKaplan-Meier法を用いた。また、各グループのSCまでの期間の比較にはGeneralized Wilcoxon testを用いた。

尚、ASCは43例（ただし、1976—1988年）、B型慢性肝炎の66例中34例に肝生検を施行した。肝生検の結果は、CAH 22例、CIH 9例、PH

久留米大学小児科学教室

Department of Pediatrics and Child Health, Kurume University School of Medicine

3例であり活動性の高いものは見られなかった。結果：e抗原からe抗体へのSCは、未治療群では31/51(61%)に、治療群では6/9(67%)に見られた。肝機能のSC群、非SC群間での比較は治療、未治療群ともに有意差が見られなかった。また、性、初診時年齢、観察期間、感染経路も有意差は見られなかった。SCの平均年齢(未治療群)は、7.8±4.2歳であり、約90%が10歳までに起こした(図1)。SC率と観察期間との関係では、観察開始後30カ月で50%以上のSCを示した(図2)。感染経路別のSC率と観察期間では、垂直感染が水平感染より早く24カ月で50%以上を示した(図3)。

図1. SC時の年齢分布

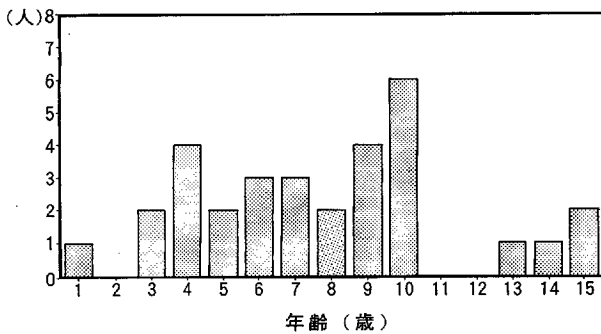


図2. SC率と観察期間との関係

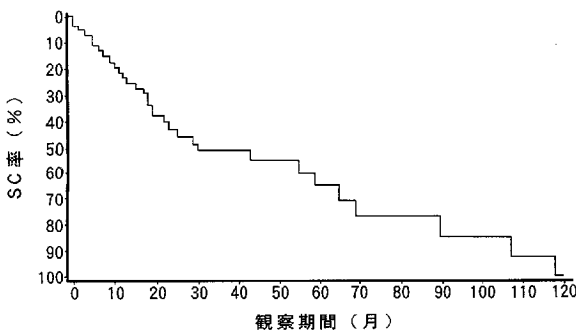
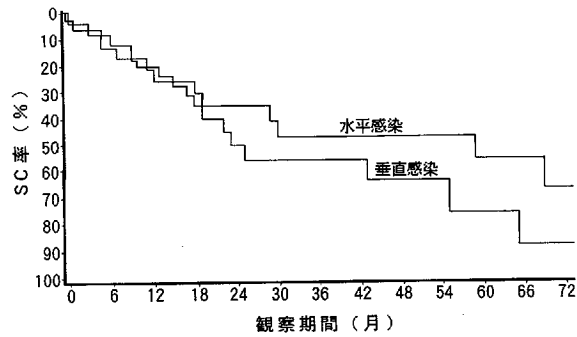


図3. 感染経路別のSC率の関係



考案：我々は、小児B型慢性肝炎では高率にSCを認め、年齢分布よりそれが10歳までに起こること、さらにSC前の肝機能でSCを推測することのできないことを報告した¹⁾。今回、症例数を増しSCについて検討するとともに、SC率と観察期間との関係について検討した。観察期間とSCを起こした年齢よりSC率を推測したところ図2、3に示すような結果となった。すなわち、肝機能異常のある児(小児B型慢性肝炎)では、急激に初めの3年までにSC(50%以上)を起こし、その後はSC頻度は低下するものと考えられた。また、感染経路における観察期間とSC率では、観察期間(60—69週)で感染経路に有意差($p < 0.05$)がみられたが、他の時期では有意差はみられなかった。すなわち、感染経路とSCは関連がないと考えられた。

以上より、小児B型慢性肝炎は、10歳までに、あるいは観察しはじめて3年以内に高率にSCを起こすと考えられた。このことより10歳以上の非SC例、または3年以上観察してもSCを起こさない症例は、治療の対象になると考えた。

文献

1) 小野栄一郎ら：小児B型慢性肝炎におけるe

抗原から e 抗体へのナチュラルな seroconversion の検討：小児消誌, 3, 33, 1989

Abstract

Seroconversion from eAg to eAb in children with chronic hepatitis B

Akihiko Kimura *, et al.

We examined seroconversion(SC) from eAg to eAb in 60 patients with chronic hepatitis B. In nontreatment group, results were as follows: 1) Ratio of SC was 61% (31/51), 2) 27 patients (87%) showed SC until 10 years old, 3) More than 50% of patients showed SC within 3 years from first visit. In treatment group, ratio of SC was 67% (6/9). These results suggest that SC from eAg to eAb occurs at early infancy time.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児の B 型慢性肝炎の自然歴を知るため、自験 60 例の e 抗原から e 抗体への seroconversion(以下、SC と略)の実態を検討した。その結果、未治療群では、(1)51 例中 31 例(61%)に SC を認めた。(2)10 歳までに 87%が SC を起こした。(3)観察 3 年以内に 50%以上に SC が見られた。治療群では、(1)9 例中 6 例(67%)に SC を認めた。以上より、小児 B 型慢性肝炎は、10 歳までに、あるいは観察しはじめて 3 年までに高率に SC を起こすと考えられた。